



めじかじ通信

航海-88

めじかじ市民記者ネットワーク

市民記者の目から見た「こもろ」を発信していくページです。ちょっとへんてこりんな名前「めじかじ」。意味は「め=目」と「じ=耳」を使って、発見への「かじ=舵」をとろう。どうぞ期待！
またガッツのある取材記者を募集します。

▼問い合わせ先 企画課 情報戦略推進係



浅間山大好きミーツイング主催者 小諸ユースホステルのペアレント

古屋昌和さん(72歳)・美佐子さん(66歳)夫妻 塩野 二

「今まで何万人泊めたか分からないけれど、マナー違反で帰した客が一人、設備が不満で引き揚げた客が一人いるだけ」と話す古屋夫妻が、佐久平を見下ろして八ヶ岳連峰を望む地を気に入って土地を購入、「大自然のど真ん中」をキャッチフレーズに小諸ユースホステルを始めから今年38年目。当初十年間は若者の旅行が盛んな時期でもあり、三年ほど無休で仕事をしたり、帰館予定時間に戻らない客の捜索や、台風で電車が二日間不通になって困った高校生ら二十人を小諸駅まで倒木のある道を数往復して迎えに

行き、広間にマットを敷きつめて泊めたことなどはペアレントの二人(日本のユースホステルでは管理者をペアレントという)にとつて、今では懐かしい思い出になっている。宿泊者が夫妻から大自然の楽しみ方を教えてもらえばかりでなく、お互いの交流や情報交換ができた結果、ここでの出会いがきっかけで結婚した人は十組を超えた。実は美佐子さんが旅行で行った北海道のユースホステルに、昌和さんが勤務していたという出会いがあったのだという。

夫妻はこれまでも多くの楽しい行事を主催してきた。味噌作りに餅つき「冬の水遊び」と銘打った漬物体験や北国街道のウォーキング。ライヴコンサートも開いた。最近では「雪の中の散歩」クロスカントリーや「浅間を眺めながらのウォーキング」など宿泊客に限定しないものが増えてきた。「浅間大好きミーツイング」もその一つ。

二人とも学生時代からの旅行好きで、特に昌和さんは民宿で土木工事の仕事を斡旋してもらって働きながら連泊を続けたほどこでも、登山は未経験に近かった。開業して初めて浅間山登山



小諸ユースホステル前から見る「ガリバーの寝姿」。「トーマの頭」を鼻に見立てる。

をし、この大地と動植物の魅力を知った。この日以来この山の素晴らしさを語り始めた。昨年八月に十人ほどで立ち上げた「浅間山大好きミーツイング」は回を重ねるにしたがつて参加者が増えて、四回目には三十人に達した。この会は「浅間山麓で生活しているか、浅間山が大好きな人」ならだれでも参加できる。これまで「ネンボー岩」を訪ねたほか、元火山観測所員や歴史研究家の話を聞くなどしてきた。夫妻は「浅間山を知り尽くそう。語り尽くそう」とさらに参加を呼びかけている。夫妻には大きな夢がある。このミーツイングが中高生も含んだ市民の活動になって、浅間山を中心にした大地の多様性をこれからも教育や観光に利用できるよう、しっかりとした保護活動につながついてほしいのだと語る。

(取材・文 佐藤 万千子)

ゆらさんの四季の薬膳

5月は菖蒲に柏に鯉

5月はやっぱり端午の節句ですね。「5節句」のひとつとして、男の子を祝うようになったのは江戸時代のことです。それ以前は田植え時期の災厄を避けるための厄除けの行事として、病気や厄を払うと信じられていた薬草の菖蒲を軒先に飾っていたといいます。菖蒲はサトイモ科の多年草で、今でもその根は「石菖蒲(せきしょうぶ)」の名で健忘、不眠などの漢方薬として使われています。

一方5月5日に欠かせない柏餅、なぜ柏を使うかご存知ですか。柏の木は、春に若い芽が出て初めて古い葉を落とすのです。このことから跡継ぎが絶えないようにと昔の人々は願ったわけです。さて、こいのぼりの鯉、薬膳ではむくみや黄疸、咳、血行障害などに効果が。日本でも古くから出産後の女性の母乳不足に用いられてきました。造血作用のある鯉、貧血の人や日頃疲労感の強い人は、端午の節句を機にぜひ鯉を使った料理に挑戦してみてください。

(国際中医薬膳師 小清水由良)

